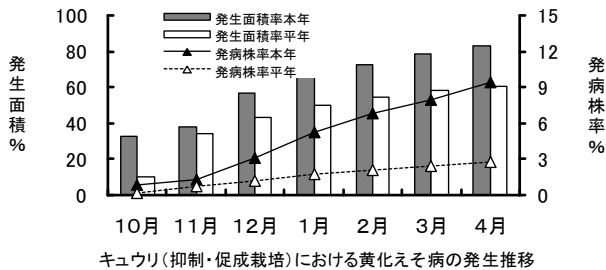


平成24年5月7日

高知県病害虫発生予察4月月報及び予報第2号(5月) 野菜類ダイジェスト版

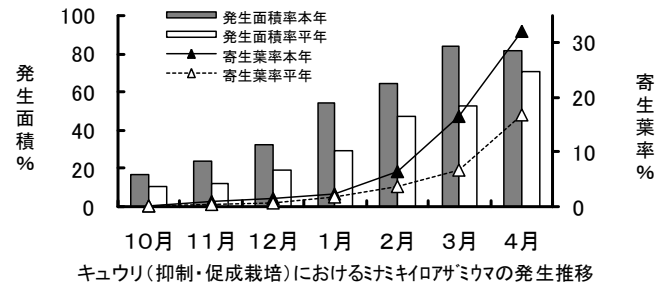
● 抑制・促成キュウリ(中央部・中西部・西部)

黄化えそ病 発生量: 平年並み



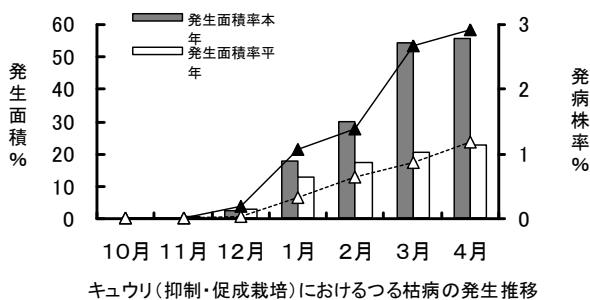
黄化えそ病は、県内全域では平年並みの発生ですが、県中央部で多発生となっています。今後は気温も上昇し、媒介虫のミナミキイロアザミウマの密度の増加に伴い、被害も拡大すると予想されるため、伝染源となる発病株の早期除去に努めてください。

ミナミキイロアザミウマ 発生量: 平年並み



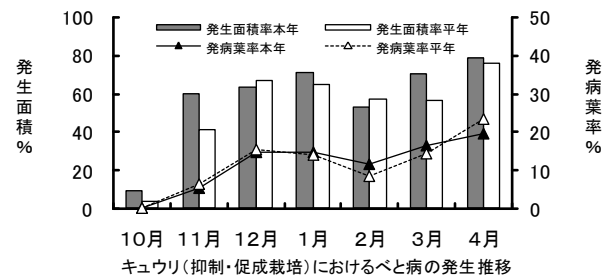
ミナミキイロアザミウマは、県内全域では平年並みの発生ですが、県中央部で多発生となっています。今後は気温も上昇し、急激に増加すると予想されるため、防除の徹底及び丁寧な散布を心がけてください。

つる枯病 発生量: 多



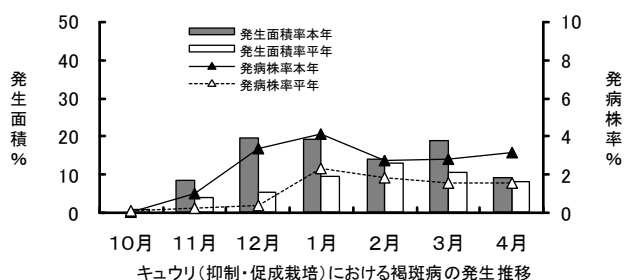
つる枯病は、全体的に多発生となっています。向こう1ヶ月予報では、気温は高く、晴れの日が多いと見込まれています。ほ場内が高温多湿条件になると、発病が助長されますので、早期発見して防除を行うとともに、適正な温湿度及び肥培管理により草勢の維持を図ってください。

べと病 発生量: 平年並



べと病は平年並の発生となっています。本病は蔓延すると薬剤散布による防除が困難となりますので、早めに発見して防除を行うとともに、適正な温湿度及び肥培管理により草勢の維持を図ってください。

褐斑病 発生量: 平年並み



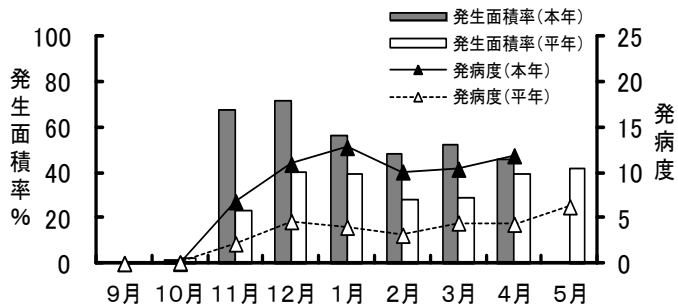
褐斑病は県西部で多発生ですが、県内全域では平年並みの発生となっています。本病は、蔓延後の薬剤散布による防除は困難となりますので、早めに発見し、適正な温湿度及び肥培管理により草勢の維持を図ってください。

平成24年5月7日

高知県病害虫発生予察4月月報及び予報第2号(5月) 野菜類ダイジェスト版

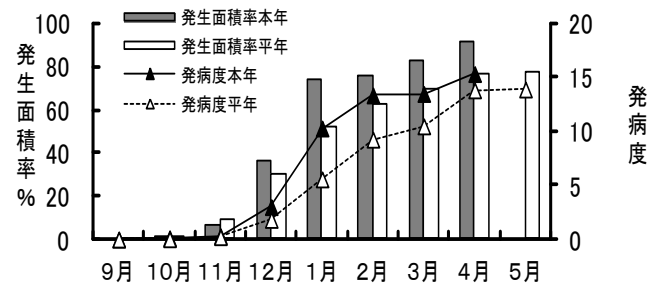
● 促成ナス(東部・中央部・西部)

黒枯病 発生量: 平年並



ナス(促成栽培)における黒枯病の発生推移

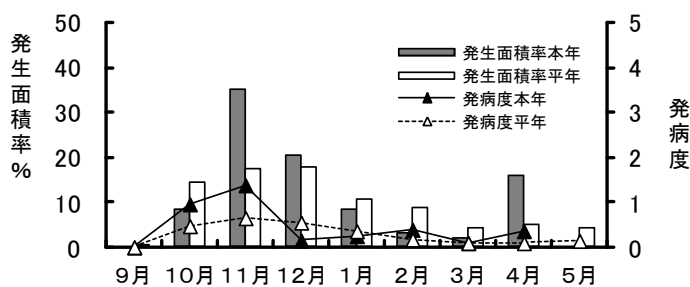
すすかび病 発生量: 平年並



ナス(促成栽培)におけるすすかび病の発生推移

黒枯病は県東部、西部で平年並の発生ですが、発生程度は平年より高くなっています。すすかび病は平年並ですが、高い発生面積率で、発生程度も先月から高まっています。両病害ともに蔓延すると防除困難となるので初期防除に努めてください。また、急激な温湿度及び肥培管理は草勢低下を招き、病勢を進展させるので避けましょう。

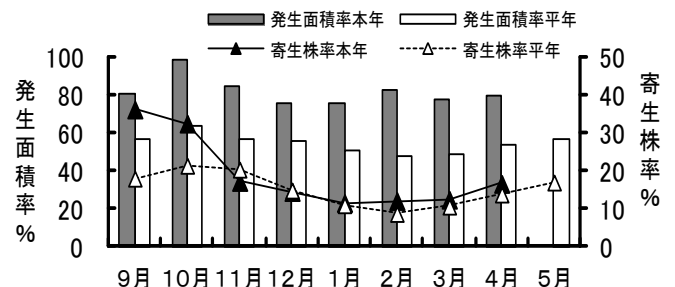
うどんこ病 発生量: 多



ナス(促成栽培)におけるうどんこ病の発生推移

うどんこ病は4月に入り発生面積が急増し、県全域で多発生となっていますが、発病の程度は高くはありません。ハウス内の温度上昇に伴って病勢を助長することがないよう、適度な温湿度管理と草勢の維持に努めてください。

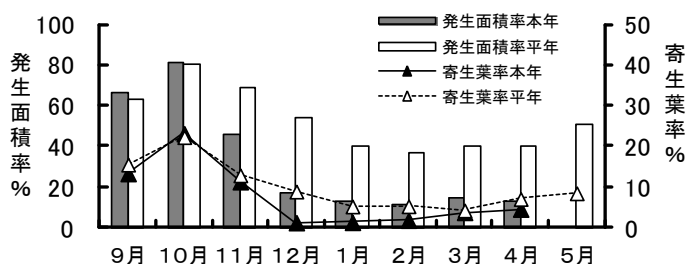
タバココナジラミ 発生量: やや多



ナス(促成栽培)におけるタバココナジラミの発生推移

タバココナジラミは、県東部～中央部で発生面積が多いですが、発生状況は問題となる程度ではありません。今後、天敵導入ハウスで発生が多くなる場合には、微生物製剤や選択性殺虫剤等での防除などが必要な場合があります。

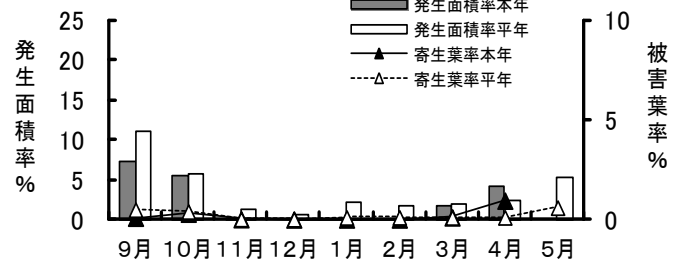
ミナミキイロアザミウマ 発生量: 少



ナス(促成栽培)におけるミナミキイロアザミウマの発生推移

アザミウマ類は先月に引き続き、発生面積・程度ともに平年より少ない発生となりました。主なナス産地である県東部を中心に、天敵により寄生密度を低く抑えています。ミナミキイロアザミウマが発生しているほ場では、ハウス内の温度上昇に伴って果実被害の増加が懸念されます。薬剤防除にあたっては、感受性低下を防ぐために同一薬剤及び同系統の薬剤の連用は避け、丁寧な散布を心がけてください。

ハダニ類 発生量: 多



ナス(促成栽培)におけるハダニ類の発生推移

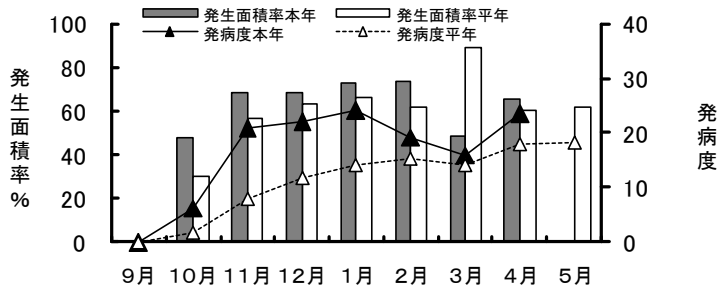
ハダニ類は、県東部、中央部で多～やや多発生となっています。増殖速度の速いミツビナミハダニの発生が見られたほ場もあります。今後、ハウス内の気温上昇とともに、発生の拡大も懸念されますので、葉裏での発生に注意し、発生確認した場合は、薬剤の防除を行いましょ。

平成24年5月7日

高知県病害虫発生予察4月月報及び予報第2号(5月) 野菜類ダイジェスト版

● 促成ピーマン(東部・中央部・中西部)

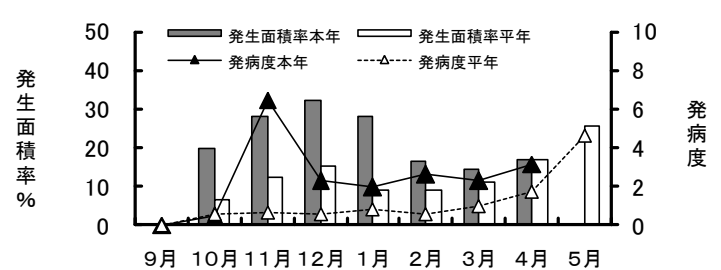
うどんこ病 発生量: 平年並



ピーマン・シシトウ(促成栽培)におけるうどんこ病の発生推移

県東部ではやや多、全般には平年並の発生となっています。今後は特に発生が助長される気象条件とはならないと考えられますが、平年並みの発生を想定して、特に硫黄くん煙処理を行っていないハウスでは、予防散布及び初期防除に努めてください。

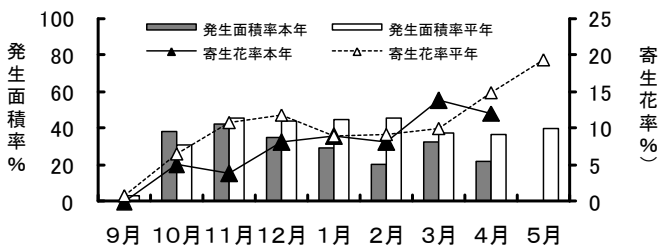
黒枯病 発生量: 平年並



ピーマン・シシトウ(促成栽培)における黒枯病の発生推移

全般には平年並ですが、中西部では多発生となっています。例年、作の後半に増加することが多く、蔓延すると防除が困難になるので、予防散布及び初期防除に努めてください。なお、薬剤のローテーションを行い抵抗性の発達を回避してください。

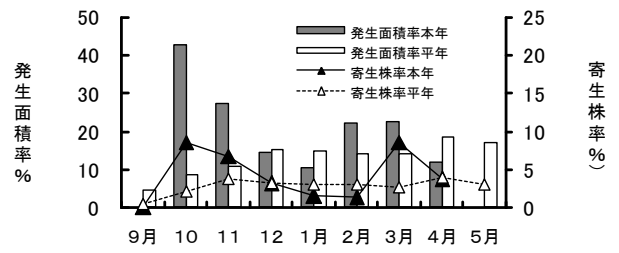
ミナキイロアザミウマ 発生量: やや少



ピーマン・シシトウ(促成栽培)におけるミナキイロアザミウマの発生推移

全般的にやや少発生ですが、気温の上昇とともに寄生密度は高くなることが予想されます。今後の発生に注意し、初期防除を徹底するとともに、薬剤のローテーションを行い抵抗性の発達を回避してください。なお、天敵導入の場合は天敵への影響を十分考慮して使用薬剤を選定してください。

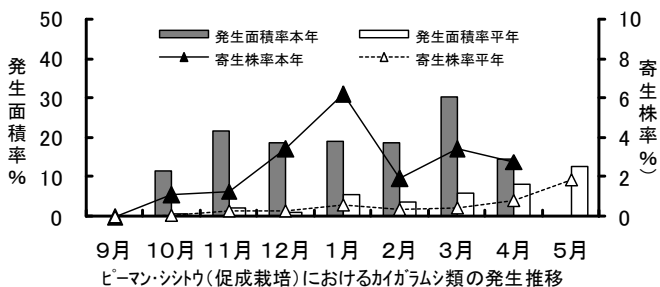
アブラムシ 発生量: 平年並



ピーマン・シシトウ(促成栽培)におけるアブラムシ類の発生推移

全般的に平年並の発生となっています。密度が高くなると防除が困難となりますので、低密度時からの防除に心がけてください。天敵導入ハウスでは、ヒゲナガアブラムシ類の発生に注意しましょう。発生の場合は天敵に影響の少ない農薬を選定しましょう。

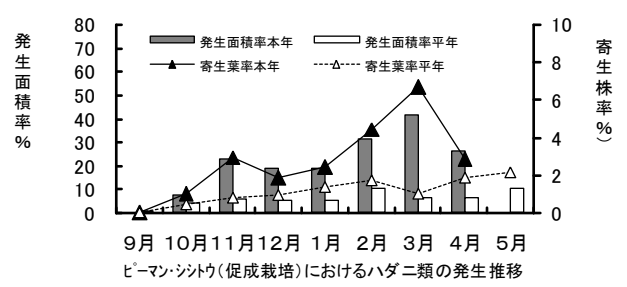
コナカイガラムシ類 発生量: 多



ピーマン・シシトウ(促成栽培)におけるカイガラムシ類の発生推移

県中央部で発生が多く、全体でも面積、寄生株率ともに高い水準です。密度が高くなると防除が困難となりますので、低密度時からの対策に心がけてください。常発傾向にある天敵導入ハウスでは、本虫に有効な天敵の導入も検討してください。

ハダニ類 発生量: 多



ピーマン・シシトウ(促成栽培)におけるハダニ類の発生推移

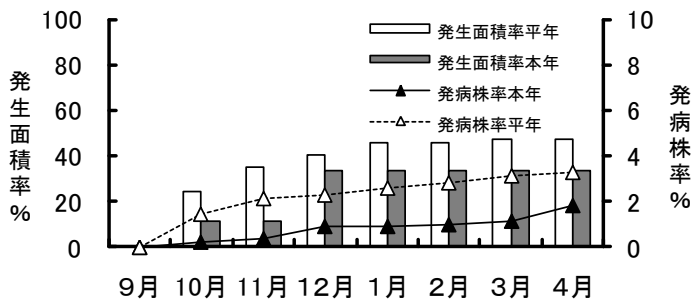
先月よりは低下したものの、県東部と中央部で発生が多く、全般に面積、寄生株率ともに高い水準です。密度が高くなると防除が困難となりますので、低密度時からの防除に心がけてください。また、防除に際しては天敵への影響を十分考慮して薬剤を選定してください。

平成24年5月7日

高知県病害虫発生予察4月月報及び予報第2号(5月) 野菜類ダイジェスト版

● 促成トマト(中央部)

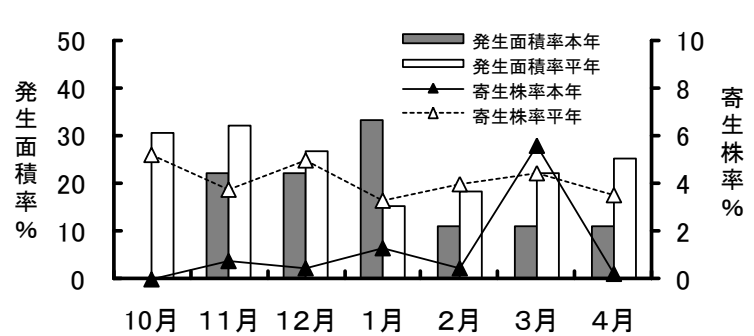
トマト黄化葉巻病(TYLCV) 発生量: やや少



トマト(促成栽培)における黄化葉巻病の発生推移

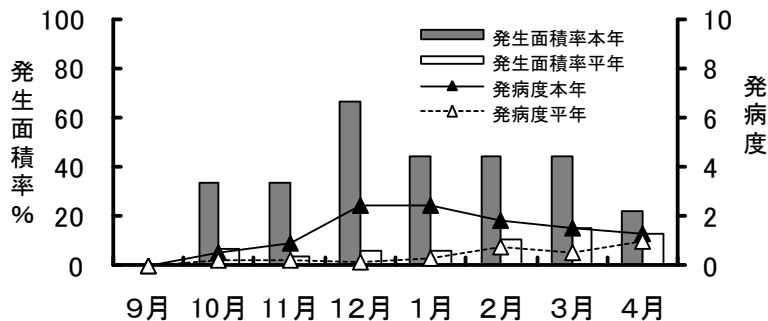
黄化葉巻病の発生面積は平年に比べやや少なく、発病株率も低く推移しています。媒介虫のタバココナジラミの発生面積も少なくなっていますが、気温の上昇に伴い、コナジラミが増加すると予想されるため、施設内での増殖や媒介虫の飛び込みに注意を払ってください。併せて、既発ほ場では新たな発病株の早期除去に努めましょう。

タバココナジラミ 発生量: 少



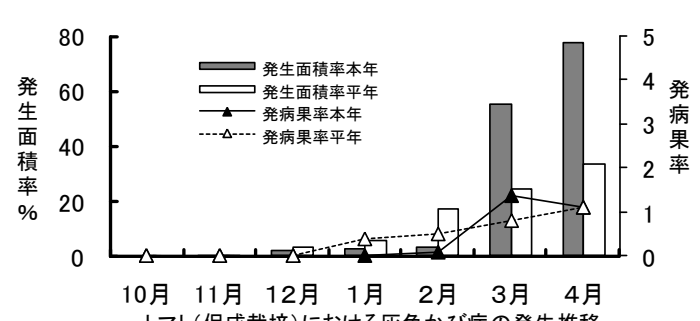
トマト(促成栽培)におけるタバココナジラミの発生推移

すすかび病 発生量: やや多



トマト(促成栽培)におけるすすかび病の発生推移

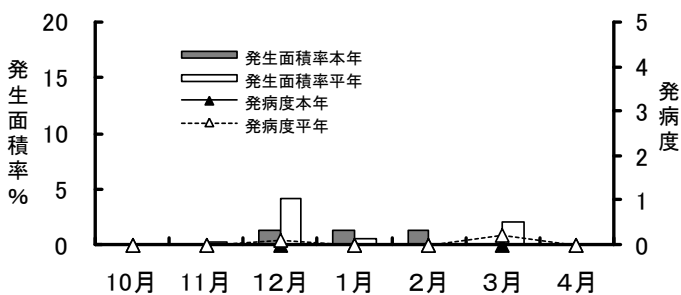
灰色かび病 発生量: 多



トマト(促成栽培)における灰色かび病の発生推移

すすかび病は平年に比べやや多、灰色かび病は平年に比べ多発生となっています。特に灰色かび病の被害は3月から急激に広がっています。ほ場によっては茎への被害も深刻でしたので、ハウス内が多湿条件にならないよう、換気を十分に行い、適正な温湿度管理に留意してください。

疫病 発生量: 少



トマト(促成栽培)における疫病の発生推移

疫病は平年に比べ少発生となっています。巡回圃場での発生はほとんど見られませんが、本病害は高温多湿条件で発生しやすいので、適正な温湿度管理に留意してください。